

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「階層的製造業人材育成の推進」

2 地域再生計画の作成主体の名称

豊田市

3 地域再生計画の区域

豊田市の全域

4 地域再生計画の目標

(1) 背景

豊田市では平成15年度に、継続的な産業振興の推進を図るための中長期計画である「豊田市産業振興策 Vプラン25」を策定した。

この産業振興策では、4つの基本目標の1つに「産業を支える人づくり」を掲げ、産業人材の育成を最重要課題としている。「豊田市産業振興策 Vプラン25」の策定後、平成16年より中小企業人材育成費補助制度の整備、各種セミナーの開催、他機関実施事業の情報提供などを行ってきた。

しかしながら、平成20年1月に実施した市内製造業へのヒアリング調査の結果によれば、市内製造業における経営的課題としては、依然として「人材育成」が上位に挙げられていた。

大企業では社内における人材育成が階層的になされているが、中堅・中小企業においては、人材育成は資格取得支援・OJTによる人材育成に限定されており、階層的な人材育成がなされているわけでない。

また、中堅・中小企業の経営層は、階層的な人材育成の必要性を感じつつも、日常業務に忙殺され、これまで具体的な行動にまで移せていない現状が明らかになった。

更に市内の中堅・中小企業においては、バブル期に人材が確保できなかったため、40代の中堅従業員の層が薄くなるといった世代の断絶も起こっており、次世代を担う中核人材の育成は豊田市の製造業にとって、必要不可欠な取組であると言える。

その上、平成20年9月以降の急激な経済状況の悪化の中、豊田市の製造業は、景気の悪化に伴う自動車販売台数の減少により急激な減産と売上げ減少の影響を受けている。

ところが、こうした悪影響の一方で、仕事量の減少により生まれた余剰

時間の活用策として、これまで十分とは言えなかった人材育成について目を向け始めた企業も現れてきている。

このような状況に際し、豊田市においては現在の経済危機を逆に地域再生の大きなチャンスと捉え、景気回復後の飛躍に向けた重要な準備期間と位置付け、産学官の連携による系統的なものづくり人材育成システムの構築を図るものとする。

(2) 目標

階層的な人材育成プログラム修了者数

産業ニーズにあった人材の安定的・継続的な育成システムを構築し、市内企業の状況に即した階層別の人材育成プログラムを作成、系統的な技術者の育成を目指す。修了後は、グループリーダーとして他の製造技術者の指導を行うとともに、新技術開発などを通して地域企業の持続的な発展に貢献することを求める。

「平成25年度までの修了者累計 750名」

ー内訳ー

- ① 自動車部品製造業における中小企業技術者育成プログラム
(入門・基礎・実践技術講座)：計550名
- ② ものづくり一気通観エンジニアの養成：計80名
- ③ (仮)豊田市版MOT講座：計60名
- ④ 工場長養成塾：計60名

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

目標を達成するために、次の2段階を経て、事業展開を図る。

(1) 人材育成のための組織形成及び運営

豊田工業高等専門学校が実施した「自動車部品製造業における中小企業技術者育成プログラム」(経済産業省委託事業：H18～H20)で培われた、高専・大学および市内企業とのネットワークを基礎に、地域の製造業人材育成を実施する産学官連携組織「(仮)ものづくり人材育成推進協議会」を作る。その組織において、豊田市内製造業に有効な階層的な人材育成プログラムの内容を検討する。市内中堅・中小企業のニーズにあった人材育成を実施し、ものづくり人材育成のソフト事業を軸とした、産業支援機能「(仮)ものづくり支援センター」の構築を目指す。

(2) 階層的な人材育成プログラムの作成

「自動車部品製造業における中小企業技術者育成プログラム」を初期段

階とし、近隣地域で開催されている講座を階層別プログラムの一部として取り込み、パッケージ化を図る。高専・大学等の教育機関との連携により、不足していると思われる階層や、豊田市内の中堅・中小企業の状況に即したプログラムを作成する。

人材育成の方向性としては、

1. 既存基幹産業である自動車部品製造技術者の育成
2. 新事業開発技術者の育成

の2分野に対応する。

(3) 階層的な人材育成プログラムの普及

豊田市は現行の中小企業人材育成補助金の見直しを図り、市内製造業の階層的な人材育成プログラムの受講を支援する。

5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5-3 その他の事業

5-3-1 基本方針に基づく支援措置

【科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラム】

1) 支援措置の番号及び名称

番号：B0801

名称：科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」
プログラム

2) 主体となる機関

名称：独立行政法人国立高等専門学校機構 豊田工業高等専門学校

住所：愛知県豊田市栄生町2丁目1番地

機関の概要：

地域の企業、大学、行政と連携し、科学技術を活用した地域再生のための製造業人材養成を実施している。

3) 事業概要

地域企業の意欲的な技術者及び高専学生を対象に先進ものづくり企業、大学、産業技術研究所の協力を得て、豊田高専を拠点に産学官の三者が一体で「ものづくりを一気通観できる技術者」の創出拠点を形成していく。技術者と学生のプロジェクトチームを中心に異分野・先端技術の融合を図り、産学官による共同教育（CO-OP）による独創的な生産システム開発に取り組み、「実学と工学」のバランスのとれた創造的技術者・学生を養成する。

4) 計画期間

平成21年7月～平成26年3月まで

5-3-2 支援措置によらない取組

1) 階層的人材育成プログラム

①自動車部品製造業における中小企業技術者育成プログラム

【実施主体：豊田工高等専門学校】

自動車部品製造中堅・中小企業若手技術者のレベルアップと技術力の高付加価値化により、中小企業の将来を担う中堅技術者の育成を目指す。

○入門技術講座：機械製図入門（コミュニケーション、プレゼンテーションなど）

○基礎技術講座：基礎工学講座（材料力学、工学材料、基礎数学など）
機械製図基礎（手書き製図演習、基礎設計技術など）
加工技術基礎（加工実習、製造現場研修など）
メカトロニクス技術基礎（メカトロニクス実習、シーケンス制御など）

電気・電子技術基礎（実験・実習など）

スキルアップ講座（報告書の書き方、技術者倫理など）

○実践技術講座：実務製図（技能検定2級受験、3D-CAD製図など）
専門技術講座（専門家講義、企業研修など）
生産技術改善（品質管理、設備保全など）

②（仮）豊田市版 MOT 講座

【実施主体：名古屋工業大学】

マーケティングを踏まえた製品開発ができるとともに、顧客のニーズに対して技術提案で対応できる中核人材の育成を目指す。

○技術・新製品開発、販売・マーケティング、経営戦略・戦略立案など

③工場長養成塾

【実施主体：名古屋工業大学】

製造現場だけでなく、どの現場にも共通する問題に気づき、考え行動できる工場長の育成を目指す。

○実習、実践、工場視察などを通じて学び得た体験を自社の工場に当てはめ、問題の発見能力を高める。

④解析・評価技術講座、⑤製造現場管理者養成講座

「（仮）ものづくり支援センター構想」の実現に併せ事業実施を図る。

2) (仮) ものづくり支援センター整備の検討

平成15年度に策定した「豊田市産業振興策」においては、既存産業の振興、新産業の創出及び人材育成などの基本目標の他に、各産業支援に関わる支援機関のネットワーク化を図り、本市の産業振興全般を効果的に推進する機能への発展性を考慮した「一元的な産業支援機能の構築」の必要性について提言している。

そこで、豊田工業高等専門学校を地域の製造業人材育成の核と位置付け、産学官共同教育から始まり、新事業開発技術者の育成、産学共同開発につなげることを目指すとともに、将来的な施設整備に向けた検討も進めていく。

3) 新サービス・新製品共同開発補助金

豊田市では、平成9年度から、中小企業が2社以上または大学等と共同で行う新しいサービスや製品の新規開発に対して支援する補助金制度を実施している。

4) ビジネスチャンス拡大事業

自動車産業で培われた高度な製造技術にさらに磨きをかけ、他分野への展開を支援するために、豊田市では平成19年度から、「ビジネスチャンス拡大事業」を実施し、市内製造業の他分野への販路拡大を支援している。

6 計画期間

認定の日から平成26年3月まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

毎年度、実施セミナーおよび受講者数の把握を行う。毎年、豊田市においてこの計画の4に示す目標の達成状況について調査、評価を行い、公表する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

特になし